

## 研究主題

### 時代・社会の要請

社会構造や環境が大きく、また急速に変化しており、将来の予測が困難な時代となっている昨今、児童一人一人が持続可能な社会の担い手として、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

### 情報活用能力

このような社会において、情報活用能力を育成することは、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら、他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくために重要である。また、情報技術は人々の生活にますます身近なものになっていくと考えられるが、そうした情報技術を手段として学習や日常生活に活用できるようにしていくことも重要となる。

### 情報活用能力育成から期待できること

昨年度、先行研究の資料をもとに情報活用能力について話し合った結果、次のようなことが明らかになった。

- ・情報活用能力は、これからの社会を生きていく児童にとって基礎となるものである。
- ・情報活用能力は学習の基盤となる資質・能力であり、持続的、かつ横断的に育む必要がある。
- ・情報活用能力を育成することによって各教科、各活動の学習の充実が図られ、児童の深い学びの実現を期待できる。
- ・長年培ってきた本校の図書館教育を活用することができる。

本校児童は知的好奇心があり、知識が豊富である。このような児童の情報活用能力を育成することは、児童らの学びの質的な向上につながるだけでなく、本校の教育目標にもあるチャレンジする子の実現にもつながるであろう。

### 仮説と研究主題

そこで、本研究では、児童の情報活用能力を育成することによって、各教科等の学習が充実し、結果、学びを深め、チャレンジする児童が育つだろうという仮説を立て、本研究主題を「学びを深めチャレンジする児童を育てる—情報活用能力の育成を通して—」とした。